



筑紫女学園大学リポジト

日韓福祉文化交流会

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2015-05-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://chikushi-u.repo.nii.ac.jp/records/410

【学科開設10周年記念】

筑紫女学園大学文学部アジア文化学科・人間文化研究所共催

特別講演：今日の中国社会と日中関係を考える

—「改革開放30年」の成果と課題—

A Special Lecture : The Chinese Society and the Japan-China
Relations of Present-day — Results and Future Problems
of ‘The Reform and Opening up during Thirty Years’ —

特別講演：趙 鳳彬（中国吉林大学教授）

司会者：横山豪志（筑紫女学園大学文学部准教授）

去る2008年10月23日スクアークヴァティーホールにおいて、筑紫女学園大学人間文化研究所主催の下、筑紫女学園大学アジア文化学科開設10周年記念事業として特別講演「今日の中国社会と日中関係を考える —「改革開放30年」の成果と課題—」が開催された。

この特別講演では、講師として1999年にアジア文化学科が開設された当時同学科で教鞭をとられ、現在は中国の吉林大学教授であられる趙鳳彬先生を、中国からお招きした。当日は学生、一般を併せ200名を超える聴衆がスクアークヴァティーホールを埋め、趙先生の講演を拝聴した。

以下、講演の要旨を記すことで、記念事業の報告とさせていただきます。

I はじめに 私の中国体験70年の想い

皆さんこんにちは、ただいまの崔先生の御丁寧な暖かいご挨拶のご紹介ありがとうございました。実は6年前、この筑紫女学園大学を定年退職して中国に戻りましてから、今度再びこの大学を訪れることができましたことを、本当にうれしく思っています。この大学は、日本滞在期間の10年の間、最も長い期間である4年間、皆さんと共に、アジアのためにがんばった思い出の多い大学です。そしてこのような懐かしい大学に再び私を呼んでいただいた小山学長、アジア学科の先生に心から感謝申し上げます。謝謝、カムサハムニダ。

ではこの講演会の本題に入らせていただきますが、その前に、私のいわゆる中国体験を簡単に振り返ってみたいと思います。私が中国に住み込んだのは1938年の12月です。その前は、朝鮮半島で生まれて、7年間、幼い時代を朝鮮半島で送りました。今、非武装地帯の北側にあたる、そこが私の生まれ故郷です。再びそこを訪れることはできませんが、本当に、振り返ってみると、

その時代は激動の時代でした。そして38年の12月に上の兄ふたりとお父さんお母さんと中国に戻ったというが、非常に言いにくいですが、中国に行きました。そこから、38年の12月からここまで70年間中国に住んでおります。そして38年から45年までの日本の植民地時代、日本の教育を6年と半年受けました。満洲時代ですけれども、これをいわゆる植民地教育と言います。日本語を勉強しました。1945年、終戦について、中国では新たな戦争が始まりました。中国の歴史上、最も激しい戦争が中国大陸で展開しました。その結果として生まれたのが今の共産党政権です。それから60年です。社会主義中国とともに生きた60年です。ここで皆さんに理解していただきたいことは、前の30年と後の30年は大きく違います。私の実感として、ここ30年は新しい、まさに新しい時代なのです。昔の30年とは違います。この体験を踏まえて、私の今の中国についての考えを率直に申し上げたいと思います。

Ⅱ 今日の「中国現象」と社会像

まず、今年の1年間を皆さんと共に振り返ってみましょう。2008年は中国の新しい時代、改革開放の中国を象徴するいろいろな出来事が発生しました。皆さんよく御存知ですが、華やかなイベントもありました。オリンピック、7回目の宇宙船も飛ばしました。船外遊泳も実現しました。豊かな社会に変わりました。しかしその一方で、チベット暴動、重大な事件です。新疆ウイグル自治区のテロ、そのテロは国際テロです。またオリンピック中に北京市内でアメリカ人が襲われて、ひとりには亡くなりました。奥さんは怪我をしてまだ入院中です。まだいろいろな出来事がありました。そして今年、2回にわたる自然の災害がありました。まず皆さん御存知の四川省の大地震。行方不明を含めて9万人がこの地震で亡くなりました。直接被害をこうむった人口が4千万、日本の人口の4分の1です。そこに動員された軍人は12万人、ようやく乗り越えました。今はかなり安定しています。もちろん身体障害者が数万人出ました。悲しい出来事です。もうひとつ、皆さん御存知ないかもしれませんが、今年の1月、中南部地域で、中部に長い川がありますよね、長江流域から南、数億の人口が集中している、そこで事故がおこりました。これを氷事事件といいます。はじめは雨がふりました。つぎに雨と雪が一緒に降りました。それで一晩中に気温が急低下してしまう、この地域の電力を供給する高圧線が一挙にとんでしまいました。マスコミではこれを公開することがなかなかむずかしいです。

また問題も山積している、ただいま申し上げた政治的事件、チベット、新疆、ほかにもみなさん御存知の食の安全問題、粉ミルク事件、中国餃子事件、粉ミルク事件、これは犯罪行為ですよ。乳を飲む幼い子供たちのミルクに、ミルクの缶に別の毒物を入れたわけですよ。おそらく近いうちに何人が処刑されるでしょう。国民の反発は大変ですよ、

まだ事件もおこるし犯罪行為もあるし、また、深刻なのは幹部の腐敗で、毎年20万から25万の幹部が処分されます。賄賂です。一言で言うと賄賂、大変ですよ、これ。だから中国国民も幹部をあまり信じません。かれらが言っているのと、実際何を考えているのかが分らない。だから中国では金持ちが多いですよ。このような1年間でした。

この1年間を私なりにまとめて、中国的現象だといいます。中国的現象というのは二面性です。二面性、対照的なふたつの出来事が同時に存在する。経済は発展しますよ、30年間二桁成長です。世界にこのような国はないでしょう。GDPの10%成長です。30年間ですよ。これを見ますと、私は日本の60年代が浮かび上がります。韓国もそうです。70年代、朴正熙軍事独裁政権のもとでの高成長、まさに独裁ですよ、朴政権のきびしい独裁です。その独裁政権のもとでの70年代の高成長、韓国の奇跡、これを漢江の奇跡といいます。

しかしその一方で、去年私半年間韓国で国立大学で学生たちと一緒に暮らしました、教えました。学生たちには不満が多いですね、たいへんですね、この社会も。大統領が決めた、アメリカから牛肉を輸入するのに反対するためにソウルで70万の学生を中心とするデモ、就職できない、貧富の格差が拡大している、貧乏人が多い。しかし韓国の一人当たりのGDPは1万ドルを越えていますよ。いま中国のGDP一人当たり2800ドル、もうまもなく3000ドル、私から見ますとこれはもう大変な世界ですよ。もう不満ばかり、こんな現象が韓国にありますよね。成果はあるが同時に、このような現象が中国ではまさに起こっています。

Ⅲ 今日の中国社会をどう見るか

それではなぜこのような現象がおきるのか、それをどう見るか、これがポイントでしょう。私は、3つのキーワードがあると思います。この中国現象を解明するキーワードは3つあります。ひとつは改革開放、ひとつは市場経済、市場の原理とか競争原理、公式には社会主義市場経済とっていますが、私はこれは間違っていると思います。市場経済でもうけっこうです。社会主義というレッテルをつける必要はない。韓国の市場経済、日本の市場経済、中国の市場経済、世界の市場経済、それだけで結構です。社会主義が資本主義かはわかりません。第二のキーワードは市場経済です。第三のキーワードは共産党一党支配システム、これは韓国や日本とは違うところですよ。この3つのキーワードを中心に、なぜこのような現象が起こったかを考えてみたいと思います。

まず、改革開放。30年前の鄧小平の改革から答えを出すことができると思います。それを検証してみます。その改革は二面性を持っています。鄧小平という人物は毛沢東と同じく、前の30年の社会主義を作り上げた人物です。しかし、30年の最後の10年の間、文革というものがあって、毛沢東にやられた苦い体験のある人物です。これがこの問題を解明するのに非常に重要なポイントとなります。毛沢東と一緒に生きた人です。しかし最後の10年間やられたが幸い生き残って、改革開放を始めたのです。だから彼の改革は二面性があります。たとえばここに機械設備がある、この設備はもうだめだ、改革しなければならぬ、鄧小平時代は、10年間かけて昔の計画経済というエンジンを取り出して、そして市場経済をその機械の中に入れたんですよ。1984年1回目、それがなかなかうまくいかなくて、天安門事件が起こります。しかしその人はまた、賢いですよ、天安門事件の後、あともどりしたら大変だといって、1992年、2回目の改革を行う、徹底的に市場経済を取り入れる、それを取り入れて死んだのです。だから私は彼を評価します。

第二は、エンジンを市場経済に変えさせた、市場経済の原理というのは、率直に言って、強い人、競争力のある企業に味方するシステムです。弱い、競争力のない企業には決して味方しません。むしろ、つぶれさせる。これ競争でしょう。ここから八年の中国現象がある。ですから力の面もここから出たのです。中国は本当に豊かになりました。しかし貧富格差、格差が三つあります。地域格差、東のほうと西のほうの。第二の格差は都市部と農村部の格差、もうひとつは都市部の格差、都市部にも貧乏な人は沢山いますよ。もうひとつの格差があります。企業内格差。社長や取締役はものすごい高い給料を貰います。私の年金は月3000円だが、月に数万円は普通です、数十万円も普通です。従業員は私より低い、せいぜい月1000円から2000円。この格差、もうしょうがないです。企業は発展します。このエンジンは回ります。で、都市部と農村部の格差、公式数字はわかりませんが、私の実感としては6対1です。都市部は6、農村部は1、国民生産が集まる都市部は30倍、40倍。しかしその中に貧乏な人は沢山いる。たとえば国营企業の改革で、リストラで落ちるものが居る。直接公式に認めたりストラで落ちた人間が6000万、まさに失業です。なにもない、再就職しなければならない。実際の数値はそれを超えるでしょう。農村は豊かになってはいるが、1億の農民が都市部へ出稼ぎをしています。これも公式の数字です。一人っ子だが、子供を教育して学校に行かせます。これが第二のキーワード、市場経済です。

第三のキーワードは共産党。皆さん、なぜかよく見えないと言います、これは私中国人でありますけれども、新しいえらい人が政治局にはいましたらこれはどういう人間がよくわからないけれども抜擢されます。なかなかよく見えないでしょう。日本ではよく見えますか、野党が民主党から社民党、共産党があってよく闘いますね、細かいことまでみんな調べて暴露しますね、マスコミが。韓国もそうですよ。韓国もハンナラ党とかあって毎日対立している。中国はそんなことないです。長期政権、共産党政権、野党はない。許さない。マスコミもよくみえない。

たとえば粉ミルク問題。私の友達の物理学の先生、孫に言われて大変だなあとおもって中国に帰ったのですが、私率直に申し上げて、スーパーに行きますと、粉ミルクで作ったケーキを皆買っているのです。ただ札がついていて、9月14日以前のはみなおろした、これらはみな9月14日以後のミルクです。お買いください、御安心ください、もう心配ありませんと。信じられますか。率直に言って、彼らも苦悩しています。悩んでいます。どうするかと。彼らの心境はどうかというと、もし韓国のような民主主義を導入したら中国はどうする、韓国のように自由にデモをする、このようなシステムを導入したらどうなるか、それは心配だ。その悪いほうの結果は、国民の利益につながる。だからとりあえずは安定しなければならない。毛沢東時代のような混乱は避けなければならないという意識が強いのです。安定が第一。

しかし安定になると多くの幹部が腐敗に走る。各省にいます。暴露したあと処罰したら、こんなに悪い人間か。そんな場合は処刑しています。ただ金儲けができるだけで、人間的には悪い人ですよ。コネを結びながら女性関係も悪い、そんなことを暴露すると、民間がこんな奴、最後に処罰するがこれをどうする。公式には中国は民主化をめざしています。胡錦濤の報告の中で、民主化は必ず実行する、民主主義は社会主義の命だ、これは私ではなく胡錦濤国家主席の、民主

主義は社会主義の命だ、民主化はしなければならない、しかし民主化は議会制民主主義、政治の自由化は避ける、民主化はやるが、政治の多元主義、自由化というものは避ける、そして色々な案がいま討議されています。三つのキーワードから言うと、一言で言うと、中国型の社会主義、というシステム、市場経済というエンジンを共産党支配というシステムの中に入れて改革開放を進めていくのが今の中国なんです。これで私は今の中国をどう見るかについての考えを申し上げた次第です。

IV 改革開放時代の中国外交と日中関係

最後になりますが、次は日中関係です。日中関係のキーワードは三つあります。ひとつは歴史問題、ひとつは経済問題、ひとつは主権、主権の問題は台湾問題です。この三つがキーワードです。ごたごたしているもとはこの三つの問題です。この三つの問題のなかでポイントとなるのが経済問題です。私はそう思いますよ。色々な摩擦がおこりますけれども、最も大事な、両国が最も大事にしている、中国の政治家たちがその本音をうちあけてみると、必ず日本との経済協力です。

最近私日本に来るたびにカメラを見てまわりましたが9割以上は日本製カメラ、カメラ市場は日本が支配します。ニコン、キャノン。自動車も。朝鮮の自動車会社に外国との合弁企業は二つあります。ひとつはドイツ、先にありました。それで、二つ目はトヨタ、値段が最も高いのはトヨタです。イーチフォンケンといいます。最も高い。なぜか。自信があるから。高くても私の製品は信用できる。省エネルギー、安定している。だから沢山売れます。安いのは10万くらいでドイツとの合弁のがあります。買ったあとで後悔します。トヨタを買ったほうがよかったのね。ですからそれだけ日本人のプライドが高い。日本の住宅がきれいにできている。昨日、歴史博物館を見ましたよ。私は歴史は素人ですが、博物館の建物は最高ですよ、中国にもそのような建物が沢山できてきましたけれども、最高ですよ。手で触ってみましたが、ゴミひとつない。硝子がすばらしい。日本の政治も信じられます。だから、日本が悪い、日本がだめだというのは日本人が言うことで、中国人は本音は経済協力です。みなさん安心して中国人とつきあってください。皆さんを歓迎しますよ。

数年前、6年前ですけれども私の学生2ヶ月間全国を走りましたが、みんな可愛がってくれた、親しく。何か買ったら、ちょっと勉強してください、割引してください、私が学生だということ、それじゃもう安くしてやれと。日本人にこの歴史教科書どう見るの、靖国問題をどうみるのと一人も質問したことない。これは国民の考えですよ。これは本当の中国の日本観と申しますか現代日本観、これはいいところです。これも二面性があります。

歴史問題がありますね、これは主に政治家の口から出てくる話です。東京都の知事さん、支那人、支那人と言っていたが、今度オリンピックに来ましたよ、招待されれば。市長が招待しました。喜んで来ましたね。それである記者がまた来ますかということ、また来る。東京はまたオリンピックを司会しなければならないから。北京では悪口はしていません。小泉さん、靖国です。これは是非日本人に聞かせたい。数千万人がこの15年間の戦争で亡くなりました。これは是非お願

いします。中国の心境、中国人の気持ちは、これを理解しないと中国を知らない、理解しないで勝手に放言するのは悪い。私は尊敬しません。福田さんがこんな話をしましたね。福田さんが質問して、記者が靖国参拝しますかと言うと、まあ、隣の国が悪い悪いと言っているのに、敢えて参拝するのはちょっと差し支えるという話がありますね。この一言が中国の若者に影響を及ぼす。ああこの人立派だと。しかしもう降りましたね。驚きました、なぜ福田さん辞めるのかな、優しい首相なのになぜ降りるのかな。麻生さん、麻生さんの昔の話はみな覚えていますよ。ああこの人はいいかな。しかし今は慎重ですね。慎重にしてそんなことしなかったら、もういいですよ。歴史問題は越えられます。日本の皆さんに全く中国人のような歴史観を持ってと言うのは無理です。逆に、中国人に日本人のような歴史観を持ちなさいというのも無理です。国が違いますから、歴史が違いますから。歴史問題は終えます。

主権問題は、何かというと危険な問題です。歴史問題は敏感な問題、経済問題はポイント、本音の問題です。主権問題は危険な問題です。これで大きいと思うのは、台湾問題です。尖閣諸島などより。もし、台湾が独立するとアメリカが阻止します。アメリカの空母がやってきます。その時日本はどうします。集団安全保障で、アメリカを支援しなければならない法的システムが出来ているわけです。これはまさに戦争です。中国は台湾を独立させない。独立をした場合は武力をも辞さないというのは、口先だけの話ではありません。これはまさに共産党の路線です。台湾の主権問題は少しでも譲歩しない。こんな話を申し上げたい。戦争したらもう、十年間くらい戦争をやって、また改革しよう、それも現実にはなっている。戦争しよう。アメリカとでもいい、日本とでもやる、やってから改革しよう。台湾では妥協する余地は考えられません。

しかし今は国民党政権ですね。不思議ですよ。国民党とはこれは昔戦ったでしょう。28年間戦ったのです。それなのに、最も親しいのが共産党と国民党なのです。なぜ親しくなりましたか。みなひとつの国を認める、中華民国がひとつの中国ですと、中華人民共和国がひとつの中国ですと、前をはずしたら、共通項があります、ひとつの中国と。これを認めたら結構、三通ができます。三通とは、人の往来、物の往来、通信の往来が自由に出来る、もうすぐ出来ます。だからうまくいきますけれども、このへんでは、いつも気になるのはアメリカの行動ですけれども、アメリカと日本の関係が考えられます。

そしてこれはキーワードですけれども、サイクルがあります、日中関係は。春が来て夏が来る、秋が来る、そして冬がきます。冬は去りました。私の考えでは冬はまた来ないと思います。日中の季節のサイクルに冬はないと思います。信じますよ。夏も難しい。春と秋です。春は来ますよ。歌にあります。春が来た。まさに春が来たのです。もちろんこれは政治家の仕事ですけれども、皆さん希望を持って日中の未来のために頑張ってください。まあこれで以上です。

V おわりに

そして最後になりますけれども、私から率直に申し上げて感じたことは、北東アジアの世界で安全保障はできても、問題は、大きいのは、似て非なる人間同士の関係です。アメリカとの関係

は割りとは外にうまくいく。韓国もそうですね、日本もそうですよ。中国もアメリカとうまくいきますよ。問題は似て非なる朝鮮半島の人と日本と中国の関係、なかなかうまくいかない。なぜ。理解に誤解があります。相互理解が必要です。だから最後に私は、北東アジアの信頼を深めるにはまず、似て非なる人間同士の相互理解が鍵であるという。以上、大雑把に失礼しました。ご静聴ありがとうございました。

(文責：秦惟人)